



Miyagiken Golf Association
50th Anniversary

宮城県ゴルフ連盟
創立五十周年

創立五十周年を迎えて



宮城県ゴルフ連盟は、昭和47年（1972）2月1日発足以来、創立五十周年を迎えることができました。これも偏に加盟倶楽部はもとより、ゴルフ関係者そしてゴルファーの皆様のご協力の賜であり、心より感謝申し上げます。

当連盟は、宮城県内に於けるゴルフスポーツの健全な普及発展と相互親睦を図る目的として、県内12倶楽部の代表者が一堂に会し、正式発足を致しました。

その後、国内の好景気に伴いゴルフブームが訪れ、ゴルフ場新設が相次ぐ中、加盟倶楽部も現在では27を数え、主催競技も発足当初の3競技から12競技に増えました。また、ゴルフが国体の正式種目となったこともあり、国民の生涯スポーツとして定着致しました。

一方、発足以降様々な苦難にも遭遇致しました。特に2011年3月11日に発生した東日本大震災は、宮城県内のゴルフ場にも甚大な被害をもたらし、一部のゴルフ場では施設の閉鎖を余儀なくされました。この未曾有の危機的状況の中で、関係各位の弛まぬ努力とゴルファーの皆様のご協力、また全国各方面からの温かいご支援によりまして震災前の水準に回復できましたこと、改めて厚くお礼を申し上げます。

大震災から今年で11年目を迎え、被災地では着実に復興が進んでおりますが、まだまだ大変な状況が続いております。一日でも早い復興・復旧を心からお祈り申し上げますとともに、復興へ向けて各倶楽部一丸となって協力していきたい思っております。

県内に限らずゴルフ場を取り巻く環境はまだまだ厳しい状況にあり、今後若年層の拡充や女性プレーヤーの普及など、より一層活性化を図ることが大切であると考えております。是非これからも皆様のご支援とご協力をお願い致します。

最後に新型コロナウイルス感染状況もまだまだ不透明で不安な日々が続きますが、一日も早い事態の終息を願いますとともに、皆様におかれましては体調管理に充分留意されますようお願い申し上げます。連盟としても皆様のご協力を頂きながら感染防止対策に十分配慮し、これからもジュニア層の育成や、生涯スポーツとしてゴルフの普及に努めて参りますとともに、ゴルフ界の発展のために貢献していくことを誓い、創立50周年の挨拶と致します。

宮城県ゴルフ連盟
理事長 鎌田 宏

連盟設立から発展・拡充 — 主な事業の軌跡

1970年代後半、第2次ゴルフブームの到来と高度経済成長期の波に乗り宮城県にも多くのゴルフ場が建設された。その中で運営合理化を図り相互連帯を深めていくことが望まれ、県内12のゴルフ場（13コース）によって1972年（S47）1月31日、宮城県ゴルフ連盟は設立された。

主な事業として宮城県アマチュア選手権をはじめ、団体戦のクラブ対抗、親善競技を主催するほか、総務・競技・ハンディキャップやジュニア育成など必要な分科委員会、支配人会を組織して、ゴルフスポーツの健全な普及発展と、会員の親睦を図ることを目的とし、さまざまな事業を展開。その後、シニア、女子などの競技も開催されるなど徐々に発展を遂げ事業の拡充が行われた。



1979年（S54）、宮城県連競技・ハンディキャップ合同委員会の会場。同委員会の活動は先駆的な役割を果たした

1993(H5)

日本女子アマ選手権はじめ全国大会が開催

日本ゴルフ協会主催の「日本女子アマ選手権」が1993年（H5）9月8～10日、東北・宮城県で初めて仙台CC（青葉山コース）で開催された。その16年後の2009年（H21）、仙台CC（名取コース／2006年名取市に移転）で再び「日本女子アマ選手権」の開催となり話題を呼んだ。他に1993年（H5）に西仙台CCで「東北オープン選手権」、1995年（H7）に泉国際GCで「日本女子シニア選手権」、2014年（H26）に利府GCで「日本アマ選手権」など数多くの全国大会が開催されている。



JGA主催の「日本女子アマ選手権」が1993年（H5）9月8～10日、仙台CC青葉山コースで東北・宮城県で全国大会が初開催された



「東北オープン選手権」の第1回大会が1993年（H5）9月2～5日、宮城県の西仙台CCで開催された。東北から日本オープン出場の道が開かれた

1996(H8)

宮城県ゴルフ連盟個人会員募集開始

1999年(H11)よりゴルフが国体の正式種目になることを受け、倶楽部会員以外のゴルファーでも公式競技に参加できるよう、底辺普及拡大を目的に宮城県ゴルフ連盟個人会員募集を開始。JGAハンディキャップが取得でき、定期的に行われる



2019年(H31)2月、通常総会後に行われた宮城県ゴルフスポーツ優秀プレーヤー顕彰式の会場風景

「県民アマゴルフ大会」は現在『チャレンジカップ』と名称を変更(2006年)し年7回の開催。予約が殺到するなど好評を得ている。

また、「県民アマゴルフ大会」の年間入賞者を表彰する議案が上がり、併せて東北大会や全国大会で活躍した選手の表彰も行うことが議決された。例年、通常総会後に開催される「宮城県ゴルフスポーツ優秀プレーヤー顕彰式」の起源となっている。

2001(H13)

新世紀・みやぎ国体で東北では初のゴルフ競技を開催

ゴルフが国体の正式種目として承認される1999年(H11)、また、2001年(H13)に開催予定の宮城国体ゴルフ競技に向けて、かねてから(財)宮城県体育協会より要請されていた財政支援について協議した結果、1997年(H9)から2001年(H13)までの5年間に毎年500万円、計2,500万円の財政支援を行うことで合意。万全の協力の下、宮城国体成功に向けて歩み出した。

2001年(H13)9月9～10日の2日間、新世紀・みやぎ国体(第56回)が各市町村で行われ、ゴルフ競技が東北で初めて開催された。成年男子は東蔵王GC(川崎町)、少年男子がオニコウベGC(鳴子町)、少年女子が富谷CC(富谷町)で熱戦を展開。少年女子団体で宮城県(宮里藍、和田委世子、井坂絢)が2位に10打差をつけて快勝。初優勝を飾った。



▲写真上:2001年(H13)東蔵王GCで行われた開会式で選手宣誓をする宮里優作

◀写真左:少年女子が圧倒的な強さを見せて初優勝

2006(H18)

ゴルフルール倶楽部対抗を全国初開催

ゴルフルールに対する理解を深める場を設けることを目的とし、日本ゴルフ協会の協力を得てクイズ形式のゴルフ規則問題を各倶楽部の代表選手2名の合計得点で競う屋内のゴルフ団体戦・宮城県ルール倶楽部対抗が2006年(H18)11月21日、仙台カントリー倶楽部で全国で先駆けて開催された。シーズンオフの恒例行事として定着し、ゴルフ規則の習得・普及へとつながっている。



全国で先駆けて開催された宮城県ルール倶楽部対抗(仙台CC)の会場風景。参加者の真剣な表情が印象的

2011(H23)

東日本大震災 — 未曾有の大災害から復興への歩み



2011年(H23)3月11日14時46分、東北地方太平洋岸沖で発生した東日本大震災。コースが大きく崩壊した宮城野GC西コース2番ホール

2011年(H23)3月11日14時46分、未曾有の大災害は県内の多くのゴルフ場でクラブハウスなど建物の損壊をはじめ、コース内にも複数の亀裂や、大きな地盤変動が生じるなど甚大な被害をもたらした。復旧までにクローズを余儀なくされ、また、閉鎖に追い込まれるゴルフ場もあった。

気仙沼CCは2度目の津波で気仙沼の街を飲み込んだ。その波は高さ40～50M以上。高台のゴルフ場に逃げてくる車が後を絶たず臨時の駐車場として対応した。コースのコンディションは良好だったが2011年は休業。パークゴルフや子供たちの遊び場として、また、ボランティアや消防関係の宿泊施設、自衛隊のヘリポート用地に提供するなど支援活動に貢献した。

松島チサンCCはクラブハウスの被害が数10か所、レストランの食器は40%が破損。カート道路の亀裂60か所、コースの崩落70か所など被害額は数億円に達した。仙台・松島コースのクローズ期間は約6カ月に及び再オープンできたのは9月1日だった。

利府GCはレストランホール、天井、壁面の被害や配管設備は30か所が破損。コース内の陥没や崩落が27か所、カート道路の亀裂は300か所にのぼった。被害額は数億円。同年7月に開催予定だった日本アマ選手権は震災の影響で延期(3



気仙沼CCから太平洋を望む。美しい海があの日には荒狂った

年後の2014年に開催)となったが、6月末には復旧工事が済み7月1日開場。9月のMMT杯ダンロップ女子オープン開催で復活を果たした。

震災後、県内の多くのゴルフ場は、資材不足など復旧には困難を極めたが、関係者の賢明な努力や多くの支援もあり次々に復旧し開場。チャリティイベントの開催などゴルフを通して明るい未来を担う復興へ歩み出した。



太白CC(旧秋保CC)18番ホールの右斜面が崩落。1番ホールのフェアウェイまで土砂が流れた



震災から3週間後の荒浜貞山運河(撮影:原田勇男)

2012(H24) ねんりんピック宮城・仙台2012が賑やかに開催

60歳以上の方々を中心として、世代を問わず交流を深めることができる第25回全国健康福祉祭「ねんりんピック宮城・仙台2012」が宮城県仙台市で開催となり、ゴルフ競技は2012年(H24)6月12日(火)、レインボーヒルズGC(富谷町/現:仙台クラシックGC)で56チーム、170名が参加し賑やかに行われ、宮城A(高原重輝・中谷慶二・伊藤萬)が団体優勝を飾った。



ねんりんピック宮城・仙台2012が開催されたレインボーヒルズCCのクラブハウス前で行われた開始式の模様

2014(H26) JLPGA主催「スナッグゴルフ教室」開催

日本女子プロゴルフ協会(JLPGA)が東日本大震災復興支援の一環として実施している「スナッグゴルフ教室」が被災地である宮城県気仙沼市で6月22日(日)に行われ、教室には地元気仙沼市内の小学生54名が参加し多くの笑顔が見られた。なお、開催にあたりJLPGAからスナッグゴルフ5セットを寄贈いただいた。



JLPGA主催「スナッグゴルフ教室」参加者全員で記念撮影

2015(H27)

宮城県ゴルフ場暴力団等追放対策協議会を設立

ゴルフ場から暴力団関係者を排除しようと宮城県警暴力団対策課と宮城県ゴルフ連盟支配人会がタイアップし「宮城県ゴルフ場暴力団対策協議会」が2015年（H27）7月に設立された。加盟倶楽部をはじめ未加盟倶楽部を含む32のゴルフ場が加盟し、入場者に暴力団関係者ではない署名を義務付けるなど暴力団関係者の入場拒否や迅速な連絡を徹底し、業界から反社会勢力の一掃を図る活動を行っている。競技会場での啓蒙活動を県内ゴルフ場で行って完全排除を目指す。



2019年（H31）9月19日、東北グランドシニア選手権会場の泉パークタウンGCで出場選手達に啓蒙活動を行う

ジュニアスクール、ジュニアゴルフ場無料開放



ゴルフ層の底辺拡大、ゴルフ未経験者への対応として、例年、ジュニアゴルフスクールを開催。東北プロゴルフ会の協力を得てゴルフクラブを握ったことのない未経験者をはじめ、初心者を中心に実施し好評を得ている。また、各ゴルフ場では付帯施設であるパッティンググリーンや練習場、コースなどの無料開放を実施。ほかにスナックゴルフ教室の開催など子供たちがゴルフに接する機会を増やすイベントの開催も行っている。

宮城県ゴルフ連盟研修会の実施

県内各加盟倶楽部会員から一般男子・シニア（55歳以上）・女子各部門の参加を得て、技量の練磨、エチケットマナーの習得など、所期の目的に添って年5回の1ラウンド競技を実施。上位者はポイントによって東北大会への出場権を取得できる。2017年、シニア層の増加によりミッドシニア（65歳以上）、グランドシニア（70歳以上）の2部門を追加した。

平成から現在までの動静 — 宮城から翔いた選手達

1995(H7) 日本マッチプレー選手権で岩田光男が最年長優勝



卓越した技術と粘り強いゴルフが持ち味の岩田三男。星野ら若手育成にも貢献した

1995年（H7）11月7～10日に愛知CC（愛知県）で開催された日本マッチプレー選手権（第4回大会）で、宮城県のベテラン岩田光男が51歳の史上最年長優勝を飾り、東北・宮城で初めて日本一の快挙を成し遂げた。準々決勝で前年チャンピオンの今野康晴を、決勝では日本アマ連覇中の杉本周作ら日本ランカーを破っての優勝は東北ゴルフ界に希望の灯をともした。

ほか秋田県アマオープン4勝、全国都道府県対抗優勝など数多くの実績を残した宮城県を代表する選手の一人。翌1996年（H8）シニア認定プロ転向し、2000年（H12）の日本シニアオープン選手権で第3位など活躍。子息はツアー3勝の岩田寛。

1996(H8) 日本アマ選手権で星野英正が優勝。ついに日本一に輝く

1993年（H5）の東北アマ選手権で若干15歳・中学3年の星野英正が初優勝を飾った。期待のルーキーはその後仙台育英高、福祉大と進学し東北アマ4連覇で臨んだ日本アマ（1996年7月9～12日／日光CC／栃木県）で史上最少ストローク、史上最多の15打差をつけて初優勝。日本一に輝いた。アマタイトルは52冠を記録し2000年プロ転向。ツアー3勝をあげている。



'96、'98、'99の日本アマ3勝を含むアマタイトル52冠の星野英正

1997(H9) 日本女子シニアで加藤和佳子が初優勝



宮城県女子アマ6連覇を含む11勝、東北女子アマ最多の6勝など永年東北・宮城の女子アマ界をリードしてきた加藤和佳子が、1997年（H9）10月23～24日にスリーレイクスCC（三重県）で開催された第5回日本女子シニア選手権で初優勝し、東北・宮城の女子アマチュアで初の日本一となった。

東北・宮城を代表するトップアマ加藤和佳子

2003(H15)

宮里藍がMMT杯ダンロップ女子オープンでアマ優勝の快挙

2003年(H15)6月に日本女子アマ選手権、8月に日本ジュニア選手権で初優勝を飾り日本タイトル2冠の宮里藍(東北高3年)が、9月26～28日に利府GCで行われたMMT杯ダンロップ女子オープンで、史上2人目となる30年ぶりのアマ優勝を飾った。当時の史上最年少記録(18歳3ヶ月)を更新。10月にはプロ転向し史上初の高校生プロゴルファーとなってツアーデビューした。

翌2004年のツアーで5勝を上げ賞金ランク2位、翌々年の2005年は6勝を上げて賞金女王に輝くなど大活躍。2009年より渡米しを海外ツアーに参戦。計9勝を上げるなどその活躍で多くのゴルフファンを魅了。東北・宮城から翔いた女子高生がゴルフの歴史を変えた。



高校生プロとなった宮里藍は2004年のツアー開幕戦で初優勝。プロ転向146日目の勝利はツアー最速記録を更新した

2008(H20)

おおいた国体(第63回)成年男子で宮城県が初優勝



国体ゴルフ競技成年男子団体で初優勝を飾った宮城県チーム。左から柴田健太郎、板橋芳一競技委員長、大友富雄監督、松岡勇作、前田和宏

2008年(H20)9月11～13日に大分CC(月形コース/大分県)で行われたおおいた国体ゴルフ競技・成年男子団体で宮城県(柴田健太郎・前田和宏・松岡勇作)が、茨城県と共に第1位を分け合い、宮城県は国体ゴルフ競技初優勝を決めた。また、女子団体で宮城県(大江香織・佐藤絵美・青木元美)が第2位入賞を果たし、男女総合成績(天皇杯得点)でも第1位は宮城県と茨城県が分け合う結果となった。

2011(H23)

日本スポーツマスターズ・ゴルフ競技女子団体で宮城県が初優勝

2011年(H23)9月14～16日に片山津GC(加賀コース/石川県)で開催された日本スポーツマスターズゴルフ競技女子団体戦で、初日単独2位につけていた宮城県(平塚光子・松田清美・二階堂幸子)が2日目、3打差を逆転し初優勝。3月11日に発生した東日本大震災で大きな被害を受けた被災地である地元・宮城県に元気を届けた。

2011(H23) 松山英樹がマスターズで日本人初のローアマ

2010年(H22)のアジアアマ優勝で翌年のマスターズ招待を受けた松山英樹(東北福祉大2年)。東日本大震災によって宮城県は甚大な被害を受け、出場を悩んだが「被災者を勇気づけよう」と出場




2012年(H24)2月8日、宮城県ゴルフスポーツ優秀プレーヤー顕彰式に参加した松山英樹(左)と藤本佳則

を決意。日本人のアマチュアとして初のマスターズで全体の27位、見事日本人初のローアマに輝き、多くの被災者に元気を届けた。

同年の太平洋マスターズで史上3人目のアマ優勝。2013年プロ転向の年に4勝を上げ賞金王に輝いた。2014年には海外ツアーに進出し2017年までに8勝をマーク。以降優勝から遠ざかっていたものの、2021年のマスターズでアジア人・日本人として初めての優勝という偉業を達成。日本のゴルフの歴史にその名を刻んだ。

2013(H25) 東京国体・成年男子団体で5年ぶり2度目の優勝

2013年(H25)年9月30日～10月1日に八王子CCで開かれた東京国体・成年男子で宮城県(幡地隆寛・池上憲士郎・松本将汰)が第2位に4打差をつけて5年ぶり2度目の優勝に輝いた。

2018(H30) 福井しあわせ元気国体・成年男子団体で宮城県がV3達成

福井しあわせ元気国体2018(第73回)ゴルフ競技は2018年(H30)10月4日(木)～6日(土)の3日間(1日目=公式練習日)、福井県あわら市の各会場(成年男子が芦原GC、女子が越前CC、少年男子が福井国際CC)で行われ、成年男子団体で宮城県(杉原大河・久保田皓也・遠藤健太)がチーム3名の2日間合計416で第2位に7打差をつけ、5年ぶり3度目の優勝。成年男子個人でも杉原大河選手が2日間合計135で優勝を分け合った。



2013年の東京国体・成年男子団体優勝の宮城県



2018年の福井国体・成年男子団体優勝の宮城県

2019(R1)

金谷拓実が太平洋マスターズで史上4人目のアマ優勝

2015年の高校3年のときに日本アマで初優勝。東北福祉大に進学後の2018年にアジアパシフィックアマを制し、マスターズで松山に続く史上2人目のアマ出場を果たした金谷拓実（東北福祉大3年）が、2019年の太平洋マスターズの最終日。最終ホールで劇的なイーグルを決め史上4人目のアマ優勝を決めた。アマ世界1位の称号「マーク・マコーマックメダル」を日本人初受賞。2020年の東北福祉大4年の時プロ転向しその後ツアー2勝をマーク。今後もその活躍が期待される。



2019(R1)

ゴルフ新規則講習会を開催



日立システムズホール（2Fコンサートホール）で行われた「2019ゴルフ新規則講習会」。県内の加盟倶楽部会員や個人会員、大学生、高校生など約300名が会場に集った

2019年1月1日、R&A、USGAによって改訂された新しいゴルフ規則の施行に伴い、2月22日（金）、宮城県ゴルフ連盟主催（協力:日本ゴルフ協会協力）の「2019ゴルフ新規則講習会」が行われた。ゴルフ規則は英国のR&AとアメリカのUSGAが制定し共同して世界的に統轄しており、今回改正された新しい規則の方針としては「可能な限り簡単にする」「もっと直観的に」「同じ状況は同じように扱う」「プレーヤーに『罰の罫』を仕掛けるような例外をなくす」「ゲーム全体のためになる変更。プレーのペースなど」など、ゴルフ規則が制定された1984年以来、実に35年ぶりの大改訂となった。

東北福祉大学の躍進

1989年の創部以来、年を追う毎に力をつけ、1998年（H10）には常勝日大の連勝を止めた。以来20余年、全国大学リーグのトップを走り続け、団体戦で男子は通算18勝、女子は10勝、うちアベック優勝9回とその強さを見せてきた。31年目となる2021年は男女で全国団体4冠を達成。個人でも松山英樹や、金谷拓実など多くのプロを輩出し東北、宮城のゴルフ界に大きく貢献している。



2014年（H26）7月開催の日本アマ選手権（利府GC／宮城県）で東北福祉大8名がベスト32に残る強さを見せた

ジュニアゴルファーの台頭



2015年（H27）7月、全国高校ゴルフ・東北予選（団体）で5年連続アベック優勝を決めた東北高

した。団体戦では全国高校ゴルフ選手権で東北高女子が7連覇8度の優勝。男子も2014年に初優勝を飾るなどその強さが光る。

個人では星野英正（仙台育英）、宮里藍（東北高）を筆頭に渡邊征伸、佐藤のぞみ、原江里菜、藤本佳則、菊池絵理香らが日本ジュニア選手権、全国高校選手権などの全国大会で優勝し、その後多くの選手がプロとして活躍



1999年の日本ジュニア選手権で沼沢聖一以来37年ぶりにジュニア日本一に輝いた渡邊征伸

「東京オリンピック2020」開催

「東京オリンピック2020」が2021年（R3）7月23日に開幕した。

新型コロナウイルス感染症の影響で1年遅れ、しかも東京は緊急事態宣言下であり開催には賛否あったが、日本選手の活躍はコロナ禍で落ち込んだ多くの人たちに大きな感動と勇気を与えた。

ゴルフ競技は7月29日から男子の第1Rが行われ、宮城県・東北福祉大出身の松山英樹の活躍に注目が集まった。舞台は松山が高校3年の2009年（H21）、ジュニア日本一になったゆかりある地・霞が関CC（東コース／埼玉県）。

最終日、首位に1打差の2位から出た松山は通算15アンダーの3位で並び、銅メダルをかけた7人によるプレーオフへ。惜しくもメダル獲得とはならなかったがその闘いに胸を打たれた。



新型コロナウイルスによる影響

2019年12月以降、パンデミックとなった新型コロナウイルスによる影響と各地に発令された緊急事態宣言によって、2020年の主催競技はすべて中止となった。2021年4月、全国初のまん延防止等重点措置が宮城県に発令され、ジュニア選手権など期間中の競技中止を余儀なくされた。解除された5月下旬以降の競技については人数制限や感染防止対策に万全を期して開催した。しかし8月には政府発令の緊急事態宣言によってミッドアマ選手権は18ホールの短縮開催となり期間中の競技は中止となった。2022年今なお感染例が急増し行く先は不透明なまま。一刻も早い終息を願いたい。

宮城県ゴルフ連盟 主催競技 歴代優勝者

宮城県アマチュアゴルフ選手権競技

回数	開催年	優勝者名	所 属
1	1972	俞 政价	西仙台 ※P
2	1973	石田 道雄	表蔵王国際
3	1974	山田 雅章	表蔵王国際
4	1975	鈴木 菊松	表蔵王国際
5	1976	俞 政价	西仙台
6	1977	岩田 光男	松島チサン
7	1978	庄司 貞安	富谷
8	1979	池田 賢	仙台
9	1980	遠藤 栄一	松島チサン
10	1981	岩田 光男	松島チサン
11	1982	庄司 貞安	仙台中山
12	1983	岩田 光男	P L 仙台
13	1984	板橋 芳一	西仙台
14	1985	庄司 貞安	グレート仙台
15	1986	山崎 正博	泉国際
16	1987	庄司 貞安	グレート仙台
17	1988	岩田 光男	泉国際
18	1989	氏家 貞夫	富谷
19	1990	岩田 光男	泉国際
20	1991	加藤 誠知	宮城
21	1992	西堀 謙一	泉国際
22	1993	米田 義雄	仙台グリーン ※P
23	1994	大友 富雄	表蔵王国際
24	1995	星野 英正	グレート仙台
25	1996	大友 富雄	表蔵王国際
26	1997	加藤 孝春	グレート仙台
27	1998	星野 英正	グレート仙台
28	1999	星野 英正	グレート仙台
29	2000	宮里 優作	泉国際
30	2001	加藤 孝春	グレート仙台
31	2002	菊地 英明	仙台
32	2003	菊地 秀明	仙台
33	2004	大友 富雄	表蔵王国際
34	2005	藤島 征次	泉国際
35	2006	中道 洋平	泉国際
36	2007	藤本 佳則	東北 3
37	2008	安本 大祐	宮城県連
38	2009	秋本 久成	泉国際
39	2010	松本 将汰	東北高 1
40	2011	陳 子豪	東北高 3 ※1
41	2012	尾崎 慶輔	東北福祉大 4
42	2013	高田 聖斗	東北福祉大 4
43	2014	伊藤 有志	東北福祉大 2 ※P
44	2015	松本 将汰	おおさと
45	2016	松本 将汰	おおさと
46	2017	竹川 雄喜	東北福祉大 1
47	2018	黒川 逸輝	東北福祉大 1
48	2019	黒川 航輝	東北福祉大 2 ※P
	2020	※中止 2	
49	2021	黒川 逸輝	東北福祉大 4

宮城県倶楽部対抗競技

回数	開催年	優勝者倶楽部名
1	1972	西仙台カントリークラブ
2	1973	表蔵王国際ゴルフクラブ
3	1974	表蔵王国際ゴルフクラブ
4	1975	表蔵王国際ゴルフクラブ
5	1976	表蔵王国際ゴルフクラブ
6	1977	宮城カントリークラブ
7	1978	富谷カントリークラブ
8	1979	西仙台カントリークラブ
9	1980	西仙台カントリークラブ
10	1981	表蔵王国際ゴルフクラブ
11	1982	西仙台カントリークラブ
12	1983	表蔵王国際ゴルフクラブ
13	1984	西仙台カントリークラブ
14	1985	表蔵王国際ゴルフクラブ
15	1986	表蔵王国際ゴルフクラブ
16	1987	富谷カントリークラブ
17	1988	フタバ中山ゴルフ場
18	1989	泉国際ゴルフ倶楽部
19	1990	表蔵王国際ゴルフクラブ
20	1991	ザ・仙台ゴルフ&カントリークラブ
21	1990	富谷カントリークラブ
22	1993	グレート仙台カントリー倶楽部
23	1994	富谷カントリークラブ
24	1995	泉国際ゴルフ倶楽部
25	1996	宮城カントリークラブ
26	1997	西仙台カントリークラブ
27	1998	西仙台カントリークラブ
28	1999	表蔵王国際ゴルフクラブ
29	2000	グレート仙台カントリー倶楽部
30	2001	ザ・仙台ゴルフ&カントリークラブ
31	2002	仙台カントリー倶楽部
32	2003	松島国際カントリークラブ
33	2004	仙台空港カントリークラブ
34	2005	グレート仙台カントリー倶楽部
35	2006	宮城カントリークラブ
36	2007	グレート仙台カントリー倶楽部
37	2008	三本木カントリークラブ
38	2009	表蔵王国際ゴルフクラブ
39	2010	表蔵王国際ゴルフクラブ
	2011	※中止 1
40	2012	泉国際ゴルフ倶楽部
41	2013	社の公園ゴルフクラブ
42	2014	社の都ゴルフ倶楽部 ※2
43	2015	表蔵王国際ゴルフクラブ
44	2016	泉国際ゴルフ倶楽部
45	2017	表蔵王国際ゴルフクラブ
46	2018	社の公園ゴルフクラブ
47	2019	社の都ゴルフ倶楽部
	2020	※中止 2
48	2021	社の公園ゴルフクラブ ※3

宮城県女子倶楽部対抗競技

回数	開催年	優勝者倶楽部名
1	2001	西仙台カントリークラブ
2	2002	仙台空港カントリークラブ
3	2003	ザ・仙台ゴルフ&カントリークラブ
4	2004	ザ・仙台ゴルフ&カントリークラブ
5	2005	松島チサンカントリークラブ
6	2006	仙台空港カントリークラブ
7	2007	松島国際カントリークラブ
8	2008	西仙台カントリークラブ
9	2009	仙台空港カントリークラブ
10	2010	松島国際カントリークラブ
	2011	※中止 1
11	2012	松島国際カントリークラブ
12	2013	松島国際カントリークラブ
13	2014	西仙台カントリークラブ
14	2015	松島国際カントリークラブ
15	2016	グレート仙台カントリークラブ
16	2017	西仙台カントリークラブ
17	2018	仙台空港カントリークラブ
18	2019	仙台カントリー倶楽部
	2020	※中止 2
19	2021	仙台空港カントリークラブ ※3

宮城県シニアゴルフ選手権競技

回数	開催年	優勝者名	所 属
1	1986	武山 忠勝	宮城
2	1987	中村 喜市	宮城
3	1988	武山 忠勝	宮城
4	1989	伏見 時夫	西仙台
5	1990	大町 宣夫	グレート仙台
6	1991	柳川 錦根	富谷
7	1992	柴山 英助	富谷
8	1993	氏家 貞夫	富谷
9	1994	遠藤 勝雄	仙塩
10	1995	氏家 貞夫	富谷 ※P
11	1996	小指 伸	宮城
12	1997	斉田 精一	富谷 ※P
13	1998	中西 春雄	松島国際 ※P
14	1999	富田 英夫	宮城野
15	2000	三塚 尚可	泉国際
16	2001	赤間 力	宮城
17	2002	庄子 光三	泉国際
18	2003	箱柳 安教	西仙台
19	2004	山崎 正博	泉国際
20	2005	狩野 義信	宮城蔵王
21	2006	山崎 正博	泉国際
22	2007	山崎 正博	泉国際 ※P
23	2008	佐々木 濤孜	レインボーヒルズ
24	2009	山路 正彦	花の杜 ※P
25	2010	佐藤 彰一	東蔵王
26	2011	佐藤 軒	富谷

※P：プレーオフによる ※1：東日本大震災の影響により開催を延期としミッドアマと併催 ※2：荒天時対応適用（第3スタートまで） ※3：荒天時対応適用（第2スタートまで）

※中止1：東日本大震災の影響により中止 ※中止2：新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止

宮城県ゴルフ連盟 主催競技 歴代優勝者

27	2012	立石 博政	花の杜	※P
28	2013	大友 富雄	表蔵王国際	※P
29	2014	大友 富雄	表蔵王国際	
30	2015	遠藤 祐也	グレート仙台	
31	2016	赤間 弘一	仙台空港	※P
32	2017	遠藤 祐也	グレート仙台	
33	2018	佐藤 芳弘	富谷	
34	2019	門間 馨	大崎	
	2020	※中止 2		
35	2021	阿部 光広	おおさと	

宮城県ミッドシニアゴルフ選手権競技

回数	開催年	優勝者名	所 属
1	1994	大町 宣夫	グレート仙台
2	1995	柳川 鎬根	富谷
3	1996	柳川 鎬根	富谷
4	1997	桜田 耕治	宮城野
5	1998	尾口 藤太郎	松島国際
6	1999	氏家 貞夫	富谷
7	2000	氏家 貞夫	富谷
8	2001	氏家 貞夫	富谷 ※P
9	2002	氏家 貞夫	富谷
10	2003	菅山 滋	仙台グリーン
11	2004	三塚 尚可	泉国際
12	2005	佐藤 昇	ザ・仙台 ※P
13	2006	中谷 慶二	松島国際
14	2007	赤間 力	宮城
15	2008	中谷 慶二	松島国際
16	2009	大槻 勝善	仙台 ※P
17	2010	高橋 実	仙台
18	2011	佐々木 滯孜	レノボ・ビルズ
19	2012	上田 仁	表蔵王国際
20	2013	近江 清志	レノボ・ビルズ
21	2014	佐藤 宗幸	泉パークタウン
22	2015	山内 浩資	杜の都
23	2016	片岡 一治	松島国際 ※P
24	2017	滝原 修	仙台空港
25	2018	佐藤 芳弘	富谷
26	2019	片岡 一治	松島国際
	2020	※中止 2	
27	2021	佐藤 芳弘	富谷

宮城県グランドシニアゴルフ選手権競技

回数	開催年	優勝者名	所 属
6	1991	菅野 正之助	松島チサン
7	1992	菅原 貞吉	西仙台
8	1993	前田 乾児	表蔵王国際
9	1994	佐藤 敏夫	松島国際
10	1995	徳田 晃	松島国際
11	1996	佐々木 正栄	富谷
12	1997	武山 忠勝	仙台
13	1998	藤山 智	松島国際

14	1999	武山 忠勝	仙台
15	2000	大久保 和男	グレート仙台
16	2001	武山 忠勝	仙台
17	2002	高橋 広吉	宮城
18	2003	菅原 繁雄	泉国際
19	2004	池田 賢	仙台
20	2005	高橋 広吉	宮城 ※P
21	2006	柴山 英助	仙台
22	2007	高橋 広吉	宮城 ※P
23	2008	斉田 精一	宮城野
24	2009	氏家 貞夫	富谷 ※P
25	2010	大亀 章	西仙台
26	2011	大槻 勝善	仙台
27	2012	中谷 慶二	松島国際
28	2013	中谷 慶二	松島国際
29	2014	高橋 実	西仙台
30	2015	高原 重輝	松島国際
31	2016	滝沢 三吉	西仙台
32	2017	上田 仁	表蔵王国際 ※P
33	2018	上田 仁	表蔵王国際 ※P
34	2019	伊藤 萬	宮城野
	2020	※中止 2	
35	2021	立石 博政	花の杜

宮城県女子アマチュアゴルフ選手権競技

回数	開催年	優勝者名	所 属
1	1986	加藤 和佳子	西仙台
2	1987	加藤 和佳子	西仙台
3	1988	加藤 和佳子	西仙台
4	1989	加藤 和佳子	西仙台
5	1990	加藤 和佳子	西仙台
6	1991	加藤 和佳子	西仙台
7	1992	二階堂 幸子	西仙台
8	1993	加藤 和佳子	西仙台
9	1994	大崎 喜美	松島チサン
10	1995	加藤 和佳子	西仙台 ※P
11	1996	加藤 和佳子	西仙台
12	1997	櫻井 美奈子	グレート仙台
13	1998	平塚 光子	仙台ハイランド
14	1999	斉藤 美香	宮城県連
15	2000	黒須 摩衣子	グレート仙台
16	2001	宮里 藍	泉国際
17	2002	斉藤 香代子	仙台空港
18	2003	藤田 祐子	宮城県連
19	2004	平塚 光子	松島国際
20	2005	金井 智子	泉国際
21	2006	原 江里菜	宮城県連
22	2007	柳澤 美冴	東北 2
23	2008	大江 香織	東北 3
24	2009	岩周 里紗	泉国際
25	2010	高島 早百合	東北高 3
26	2011	平塚 光子	松島国際

27	2012	新田 千夏	東北高 1
28	2013	木村 怜衣	将監中 2 ※P
29	2014	高久 ゆうな	東北高 3
30	2015	木村 怜衣	東北高 1
31	2016	鶴瀬 華月	南吉成中 2
32	2017	久保田さくら	東北高 3
33	2018	竹本 梨奈	東北高 3 ※P
34	2019	郡山 瞳	東北高 3
	2020	※中止 2	
35	2021	郡山 瞳	東北福祉大 2

宮城県ミッドアマチュアゴルフ選手権競技

回数	開催年	優勝者名	所 属
1	2007	菊地 秀明	仙台
2	2008	菊地 秀明	仙台
3	2009	白出 高明	泉パークタウン
4	2010	阿部 光広	やくらい
5	2011	佐藤 軒	富谷
6	2012	遠藤 祐也	グレート仙台
7	2013	沼田 光樹	松島チサン
8	2014	白出 高明	泉パークタウン
9	2015	沼田 光樹	杜の公園 ※P
10	2016	白出 高明	泉パークタウン
11	2017	沼田 光樹	杜の公園
12	2018	沼田 光樹	杜の公園
13	2019	沼田 光樹	杜の公園
	2020	※中止 2	
14	2021	白出 高明	泉パークタウン

宮城県ジュニアゴルフ選手権競技

〈男子〉

回数	開催年	優勝者名	所 属
1	1995	星野 英正	仙台育英 3
2	1996	渡邊 征伸	多賀城中 3
3	1997	渡邊 征伸	仙台育英 1
4	1998	渡邊 征伸	仙台育英 2 ※P

〈高校男子〉

回数	開催年	優勝者名	所 属
5	1999	米澤 友一	仙台育英 2
6	2000	角掛 史公	仙台育英 1

〈男子 15 ~ 17 歳の部〉

回数	開催年	優勝者名	所 属
7	2001	土屋 陽平	東北高 2
8	2002	依田 利之	東北高 3
9	2003	青山 怜央	東北学院高 1
10	2004	仲西 盛弘	東北 1
11	2005	堀 将聡	東北 1
12	2006	藤本 佳則	東北 2
13	2007	川口 明宏	東北 2
14	2008	森本 雄	東北 3
15	2009	高橋 優真	東北 3 ※P
16	2010	嶺岸 政秀	東北高 2 ※P

※P：プレーオフによる ※中止 2：新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止

宮城県ゴルフ連盟 主催競技 歴代優勝者

2011	※中止 1			
17	2012	鈴木 豪	東北学院櫛ヶ岡高 2	
18	2013	渡邊 和希	東北高 2	
19	2014	山路 幹	東北高 3	
20	2015	中村 カイヤ	東北高 2	※P
21	2016	渡邊 悠斗	東北高 2	
22	2017	白石 星南	東北高 3	※P
23	2018	倉林 太聖	東北高 2	
24	2019	嶺岸 聖也	聖ウルスラ高 3	※P
	2020	※中止 2		
	2021	※中止 2		

〈中学男子〉

回数	開催年	優勝者名	所 属
5	1999	依田 利之	長命ヶ丘中 3
6	2000	早坂 俊彦	付属中 3

〈男子 12 ~ 14 歳の部〉

回数	開催年	優勝者名	所 属
7	2001	青山 怜央	東北学院中 2
8	2002	青山 怜央	東北学院中 3
9	2003	金野 陽樹	面瀬中 3
11	2005	芳賀 貴之	寺岡中 2
12	2006	結城 義秀	将監中 3
13	2007	大槻 祐大	秀光中 1
14	2008	加藤 健太郎	亘理中 3
15	2009	松本 将汰	西山中 3
16	2010	松尾 洋輝	長命ヶ丘中 3
	2011	※中止 1	
17	2012	今野 匠	七北田中 [2]
18	2013	今野 匠	七北田中 3
19	2014	若有 宣彦	長命ヶ丘中 3
20	2015	佐藤 亮太郎	中山中 3
21	2016	原田 竜成	成田中 1
22	2017	黒澤 大輝	高森中 3
23	2018	鈴木 雄大	川崎中 2
24	2019	三上 優心	八木山中 3
	2020	※中止 2	
	2021	※中止 2	

〈女子〉

回数	開催年	優勝者名	所 属	
1	1995	高橋 美保子	仙台育英 3	
2	1996	相蘇 江里	仙台育英	
3	1997	黒須 摩衣子	東北高 1	
4	1998	黒須 摩衣子	東北高 2	
5	1999	藤田 祐子	仙台育英 3	※P
6	2000	鈴木 舞子	東北高 2	

〈女子 15 ~ 17 歳の部〉

回数	開催年	優勝者名	所 属
7	2001	和田 委世子	東北高 1
8	2002	佐々木ひとみ	仙台育英 2
9	2003	有村 智恵	東北高 1

10	2004	有村 智恵	東北 2	※P
11	2005	菊地 絵里香	東北 2	
12	2006	木戸 愛	東北 2	
13	2007	野村 美優	東北 3	
14	2008	青木 元美	東北 2	
15	2009	高島 早百合	東北 2	
16	2010	高島 早百合	東北高 3	
	2011	※中止 1		
17	2012	新田 千夏	東北高 [1]	
18	2013	高久 ゆうな	東北高 2	
19	2014	坂東 奈央	東北高 2	
20	2015	上杉 梨乃	東北高 1	
21	2016	山路 晶	東北高 3	
22	2017	野辺 奈々子	東北高 2	
23	2018	野辺 奈々子	東北高 3	
24	2019	郡山 瞳	東北高 3	
	2020	※中止 2		
	2021	※中止 2		

〈女子 12 ~ 14 歳の部〉

回数	開催年	優勝者名	所 属	
8	2002	佐藤 のぞみ	山田中 3	
9	2003	五十嵐くるみ	七北田中 1	
11	2005	久保田 有里	高森中 1	
12	2006	久保田 有里	高森中 2	
13	2007	久保田 有里	高森中 3	
14	2008	藤原 佑貴乃	仙台白百合中 1	
15	2009	民谷 琴子	大沢中 3	
16	2010	新田 千夏	住吉台中 2	
	2011	※中止 1		
17	2012	平塚 新夢	住吉中 [1]	※P
18	2013	久保田さくら	吉成中 2	
19	2014	平塚 新夢	住吉中 3	
20	2015	横山 もも	稲井中 3	
21	2016	鶴瀬 華月	南吉成中 2	
22	2017	櫻井 梨央	吉成中 2	
23	2018	櫻井 梨央	吉成中 3	
24	2019	横山 百合香	荒浜中 3	
	2020	※中止 2		
	2021	※中止 2		

〈男子 11 歳以下の部〉

回数	開催年	優勝者名	所 属	
10	2004	太田 圭介	太白小 6	
11	2005	嶺岸 将貴	小松島小 5	
12	2006	大槻 祐大	利府小 6	
13	2007	鈴木 豪	長町小 6	
14	2008	山路 幹	将監西小 6	
15	2009	西山 貴季	南光台東小 5	
16	2010	池田 春樹	七郷小 6	※P
17	2012	荒井 竜之進	成田小 [6]	
18	2013	阿部 修也	山下小 6	

19	2014	黒澤 大輝	高森小 6
20	2015	鶴瀬 覇也	南吉成小 4
21	2016	鶴瀬 覇也	南吉成小 5
22	2017	鶴瀬 覇也	南吉成小 6
23	2018	芳賀 悠翔	北中山小 6
24	2019	平山 雅之	南吉成小 6
	2020	※中止 2	
	2021	※中止 2	

〈女子 11 歳以下の部〉

回数	開催年	優勝者名	所 属
10	2004	久保田 有里	仙台白百合小 6
11	2005	武山 リサ	飯野川第一小 5
12	2006	新田 千夏	住吉台小 4
13	2007	新田 千夏	住吉台小 5
14	2008	新田 千夏	住吉台小 6
15	2009	佐野 羽蘭	宮城野小 6
16	2010	大村 みなみ	南中山小 5
	2011	※中止 1	
17	2012	山本 望海	七北田小 [5]
18	2013	山本 望海	七北田小 6
19	2014	鶴瀬 華月	南吉成小 6
20	2015	櫻井 梨央	新田小 6
21	2016	社本 桜子	片平丁小 5
22	2017	倉林 紅	東向陽台小 6
23	2018	鶴瀬 楓彩	南吉成小 6
24	2019	横山 椿咲	荒浜小 6
	2020	※中止 2	
	2021	※中止 2	

TGA ゴルフフェスティバル

〈男子 A クラス〉

回数	開催年	優勝者名	所 属
1	2002	庄子 正春	仙台グリーン

〈男子の部〉

回数	開催年	優勝者名	所 属
2	2003	小杉 恵	ザ・仙台
3	2004	高橋 栄一	花の杜
4	2005	佐々木 幹弥	仙台
5	2006	幸谷 徹	秋保
6	2007	菅ノ又 達	表蔵王国際
7	2008	鎌田 稔	泉国際
8	2009	武田 宏	グレート仙台
9	2010	齋藤 平四郎	泉パークタウン
10	2011	丸子 勉	仙台ハイランド
11	2012	遠藤 春美	富谷
12	2013	志賀 弘朗	グレート仙台
13	2014	齋藤 平四郎	泉パークタウン
14	2015	鈴木 昭次	宮城県連個人会員
15	2016	菅原 勉	松島国際
15	2017	佐藤 天	太白・秋保
16	2018	佐々木 繁	大崎
17	2019	山家 彰久	表蔵王国際

※P：プレーオフによる ※中止 1：東日本大震災の影響により中止 ※中止 2：新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止

宮城県ゴルフ連盟 主催競技 歴代優勝者

2020	※中止 2			
18	2021	島山 仁志	杜の都	

〈男子 B クラス〉

回数	開催年	優勝者名	所 属
1	2002	千葉 義文	ミサワ社の公園

〈女子の部〉

回数	開催年	優勝者名	所 属
4	2005	浅野 ひとみ	西仙台
5	2006	富樫 和枝	グレート仙台
6	2007	小野 富子	仙台空港
7	2008	浅野 ひとみ	西仙台
8	2009	佐藤 良子	泉国際
9	2010	三嶋 可奈子	宮城県連
10	2011	池尻 陽子	泉国際
11	2012	松岡 智子	杜の公園
12	2013	林 瑞枝	宮城県連個人会員
13	2014	星 明子	仙台ヒルズ
14	2015	小野寺みゆき	グレート仙台
15	2016	本郷 千春	仙台
16	2017	菅原 恵	グレート仙台
17	2018	原 真由美	杜の都
18	2019	大槻 弘恵	杜の公園
	2020	※中止 2	
18	2021	原 真由美	杜の都

国民体育大会ゴルフ競技選手選考会

〈成年男子〉

回数	開催年	優勝者名	所 属
64	2009	藤本 俊	泉国際
65	2010	久我 悠太郎	東北福祉大 3
66	2011	岩崎 誠	泉国際
67	2012	梅山 知宏	東北福祉大 3
68	2013	池上 憲士郎	東北福祉大 3
69	2014	松本 将汰	おおさと
70	2015	早藤 将太	東北福祉大 4
71	2016	久保田 皓也	東北福祉大 1
72	2017	遠藤 健太	東北福祉大 3
73	2018	坂本 雄介	東北福祉大 2
74	2019	久保田 皓也	東北福祉大 4
	2020	※中止 2	
	2021	※中止 2	

〈少年男子〉

回数	開催年	優勝者名	所 属
64	2009	鈴木 勝文	東北 3
65	2010	鈴木 豪	長町中 3
66	2011	松本 将汰	東北高 2
67	2012	佐々木 魁斗	仙台育英高 2
68	2013	池田 佑甫	仙台育英高 3
69	2014	高橋 佑弥	東北高 3

70	2015	白石 星南	東北高 1
71	2016	今野 匠	ルネサンス高 3
72	2017	渡邊 悠斗	東北高 3
73	2018	山本 大雅	東北高 3
74	2019	廣澤 京平	東北高 3
	2020	※中止 2	
	2021	※中止 2	

〈女子〉

回数	開催年	優勝者名	所 属
64	2009	野村 美優	泉国際
65	2010	佐藤 絵美	東北福祉大 1
66	2011	佐藤 絵美	東北福祉大 2
67	2012	佐藤 絵美	泉国際
68	2013	沖 せいら	東北福祉大 3
69	2014	椿原 海里	東北高 3
70	2015	西畑 昭甫	東北高 3
71	2016	木村 怜衣	東北高 2
72	2017	鶴瀬 華月	南吉成中 3
73	2018	鶴瀬 華月	東北高 1
74	2019	小西 瑞穂	東北福祉大 3
	2020	※中止 2	
	2021	※中止 2	

東北アマチュアゴルフ選手権競技・宮城県予選

回数	開催年	優勝者名	所 属
33	1998	渡邊 征伸	松島チサン
34	1999	徳永 正夫	ザ・仙台
35	2000	佐々木 傅美	仙塩
36	2001	桶川 悟	西仙台
37	2002	渡邊 征伸	松島国際
38	2003	権 奇澤	泉国際
39	2004	藤島 征次	泉国際
40	2005	藤島 晴雄	泉国際
41	2006	小林 伸太郎	泉国際
42	2007	奥山 知宏	ザ・仙台
43	2008	高柳 直人	泉国際

※P：プレーオフによる ※中止 2：新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止